

**Oracle® Hardware Management Pack for
Oracle Solaris 11.3 リリースノート**

ORACLE®

Part No: E76516-02
2017 年 3 月

Part No: E76516-02

Copyright © 2015, 2017, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	9
ソフトウェアリリースの情報	11
Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris	11
Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.3 の更新内容	11
新機能	12
プラットフォームおよびコンポーネントのサポート	14
修正された問題	14
Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris のドキュメント	17
インストールの注意事項と問題	19
Oracle Solaris 11/11.1 から Oracle Solaris 11.3 への更新にはリポジトリの設定 が必要である	19
Oracle Solaris ゾーンでのインストール	19
既知の問題と注意事項	21
Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題	21
SPARC T3 システムで一部のユーティリティーの実行速度が遅い (15720486、15705545)	21
firmware-check 機能が Oracle Solaris 11.3 でサポートされていない (24341488、24348414)	22
Oracle Sun Server X3-2L および X4-2L 用の Oracle ILOM にディスクの詳細 が表示されない (25590843)	22
fwupdate の既知の問題	23
16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) で ファームウェアバージョンが表示されない (17037795)	24
Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには 電源の再投入が必要である (16562687)	24
Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラー メッセージを無視してもかまわない (15762571)	24

fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)	25
SPARC の一部の Intel ベースのオンボード Ethernet コ ントローラのファームウェアの更新に fwupdate を使用できない (21616063、21622963)	25
Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)	26
4 つ以上の Intel ネットワークコントローラを一覧表示また は更新したときに、fwupdate が失敗したり、時間がかかったりする (21920385)	26
SPARC M7 サービスプロセッサの更新時に fwupdate が失敗のメッセ ージを表示する (21843467)	26
fwupdate マニュアルページに sysfw および sp_bios ターゲットにつ いての誤解を招く情報がある	28
fwupdate の check サブコマンドが Oracle Solaris 11.3 でサポートされ ていない (24348414)	28
システムファームウェアやフォールバックブートイメージの更新時に fwupdate で自動資格証明が機能しないことがある (25683463)	28
hwmgmtcli の既知の問題	29
Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーシ情報 に関するエラーメッセージが返されることがある (15762248)	30
Sun Blade X6270 M2 で誤ったシャーシデータが表示される (15732926、15737206、15737199)	30
hwmgmtcli list open_problems を実行すると、不完全な未解決の問 題のレポートが表示されることがある (21787319)	30
ilomconfig の既知の問題	31
Oracle ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがあ る (15650623)	31
ilomconfig のホストの資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)	32
ipmitool の既知の問題	33
SP のブート時に SPARC T3-4 ホストに電源が入っていると、ipmitool エラーが発生することがある (15719015、15691003)	33
raidconfig の既知の問題	33
ユーザー警告: raidconfig でシステムのブートディスクが使用可能と 表示される (20992189)	34
SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないこ とがある (15782246)	34
3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)	34
RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (15742034)	35

SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティーが表示されない (15666684)	35
LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (15675209)	35
raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされないと表示される (22129034)	36
ubiosconfig の既知の問題	36
ubiosconfig が Oracle ILOM 3.2.6 を備えたシステムの BMC に接続できない (24356013)	36
Hardware Management Agent および SNMP の既知の問題	37
Oracle ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが生成されない (15686011)	38
Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)	38
SNMP トラップの問題	38
Sun Blade X6250 サーバーモジュールが間違っただサービスプロセッサのバージョン番号を報告する	39
ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサーの親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)	39
SPARC T3 シリーズサーバーでディスクリット電流センサーが間違っただ分類される (15687547)	39
sunHwMonFruStatus がコンポーネントの障害状態を反映しない (15687574)	39
SunHwMonInventoryTable が間違っただ数の DIMM を示す (15566455)	40
SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しくない	40
ホストエージェントが間違っただ通知を生成することがある (15675490)	40
sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (15666684)	41
SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (15668518)	41
Storage MIB がデュアルパスディスクを公開しない (15673745)	41
SPARC システムで NVMe Flash Accelerator PCIe カードがアドオンディスクと分類されない (23253880、23253984)	42
ストレージビューアの既知の問題	42
Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)	43
Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティーが正しくない (15584958)	43

write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)	43
SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用	43
ilomconfig (16369886)	44
hwmgmtcli (16507559)	45
itpconfig (16508501、16507898)	46
Hardware Management Agent (15824059、15824037)	46

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.3 の最新のドキュメントとサポートの入手方法について説明します。フィードバック用のリンクおよびドキュメントの変更履歴も記載されています。

- [9 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [9 ページの「サポートとトレーニング」](#)
- [10 ページの「共著者」](#)
- [10 ページの「変更履歴」](#)

ドキュメントとフィードバック

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris の関連ドキュメントには次のようなものがあります。

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://docs.oracle.com
Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris	http://www.oracle.com/goto/ohmp/solarisdocs
Oracle ILOM	http://www.oracle.com/goto/ilom/docs

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート: <https://support.oracle.com>

- トレーニング: <http://education.oracle.com>

共著者

このドキュメントの共著者は、Cynthia Chin-Lee、Ralph Woodley、Michael Bechler です。

変更履歴

ドキュメントには次の変更が加えられています。

- 2015年10月。初版。
- 2015年11月。Oracle Solaris 11.3 SRU 2 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年1月。Oracle Solaris 11.3 SRU 4 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年2月。Oracle Solaris 11.3 SRU 5 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年3月。Oracle Solaris 11.3 SRU 6 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年4月。Oracle Solaris 11.3 SRU 7 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年5月。マニュアルページの無効な fwupdate ターゲットに関する問題について、『リリースノート』が更新されました。
- 2016年5月。Oracle Solaris 11.3 SRU 8 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年6月。Oracle Solaris 11.3 SRU 9 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年7月。Oracle Solaris 11.3 SRU 10 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年7月。fwupdate の firmware-check および check サブコマンドを Oracle Solaris 11.3 リリースのサポートから削除することについて『リリースノート』が更新されました。ubiosconfig に関する問題の追加。
- 2016年8月。Oracle Solaris 11.3 SRU 11 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2016年12月。Oracle Solaris 11.3 SRU 15 リリースについて『リリースノート』が更新されました。
- 2017年3月。Oracle Solaris 11.3 SRU 18 リリースについて『リリースノート』が更新されました。

ソフトウェアリリースの情報

このセクションでは、次の情報について説明します。

- [11 ページの「Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris」](#)
- [11 ページの「Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.3 の更新内容」](#)
- [17 ページの「Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris のドキュメント」](#)

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris

このドキュメントは、Oracle Solaris 11.3 を実行しているサーバーに適用されます。Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris は、Oracle サーバーの管理に役立つコマンドとエージェントのセットであり、Oracle Solaris 11.3 オペレーティングシステムの一部です。

Oracle Solaris 11.2 から、Oracle Hardware Management Pack はオペレーティングシステムに統合されたコンポーネントになります。Oracle Solaris 11.3 オペレーティングシステムに対して明示的に保証されていないほかのバージョンの Oracle Hardware Management Pack をダウンロードしたり使用したりしないでください。Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.3 への更新は、Oracle Solaris SRU リリースで使用できます。

Oracle Solaris 11.1 以前またはほかのオペレーティングシステムを使用している場合は、<https://support.oracle.com> から個別のダウンロードとして使用可能なスタンドアロンバージョンの Oracle Hardware Management Pack を引き続き使用してください。

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.3 の更新内容

このセクションでは、Oracle Hardware Management Pack (HMP) for Oracle Solaris 11.3 リリースでの変更点について説明します。

- 12 ページの「新機能」
- 14 ページの「プラットフォームおよびコンポーネントのサポート」
- 14 ページの「修正された問題」

新機能

Oracle Solaris 11.3 SRU リリースの一部として次の新機能があります。

Release SRU 18 の機能 (HMP バージョン 2.4.0.0)

- 更新された Oracle Hardware Management Pack 2.4 パッケージは、Oracle Solaris 11.3.18 に含まれています。ただし、これらのパッケージは、システムが pkg update コマンドを使用してインストールされた場合や、Automated Installer またはテキストインストーラなどのほかのインストール方法によってインストールされた場合であっても、デフォルトでインストールされません。Oracle Solaris 11.3.18 への更新後、次のコマンドを実行して Oracle Hardware Management Pack 2.4 パッケージをインストールしてください。

```
# pkg change-facet version-lock/consolidation/ssm/ssm-incorporation=false
# pkg update -vn (to see list of HMP 2.4 packages)
# pfexec pkg update
```

- IPMItool および IPMIflash に、IPMI 2.0 で使用される追加のセキュリティーを LANPLUS プロトコル経由で提供する新しいセキュアなインタフェース ORCLTLS が追加されました。詳細は、これらの各ユーティリティーのマニュアルページを参照してください。

注記 - Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.3 SRU 18 では、IPMI over TLS 用の暗号化通信がサポートされていますが、証明書の検証は現在サポートされていません。証明書の完全な検証は、Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.3 の将来のリリースでサポートされる予定です。

- nvmeadm erase コマンドに、NVMe ストレージデバイスをセキュアに消去する --secure オプションが追加されました。
- fwupdate update コマンドに fallback-boot ターゲット (自動モード) および fallback-boot-image ターゲット (手動モード) が追加されました。
- fwupdate update (自動モード) に、メタデータコンポーネントの優先度に基づく更新を許可する --start-priority および --end-priority オプションが追加されました。
- fwupdate list および fwupdate update に、ユーザーの確認を行わずに上書きプロセスが完了するようにできる -y および --yes オプションが追加されました。

- `hwmgmtcli export` に、ユーザーの確認を行わずに上書きプロセスが完了するようにできる `-y` および `--yes` オプションが追加されました。
- `-?`、`-h`、または `--help` でコマンド行ヘルプが表示されるように、すべてのコマンドの一般オプションに `-h` オプションが追加されました。
- `fwupdate update` コマンドを使用して更新可能なコントローラに関するコントローラ情報のみを表示するように `fwupdate list` の機能が変更されました。
- デフォルトのポーリング時間を毎時に変更し、`hwmgmt.conf` 内の構成可能なパラメータで特定の種類の SNMP ポーリング要求を有効化、無効化、またはそのタイミングを変更できるように Hardware Management Agent (`hwmgmt`) の機能が変更されました。

Release SRU 10 の機能 (HMP バージョン 2.3.6.0)

- `fwupdate` コマンドに SPARC システムの `sysfw` ターゲットが追加されました (下位互換性のスクリプト用に SPARC および x86 の両システムに対する既存の `sp_bios` ターゲットも引き続きサポートされます)。

Release SRU 9 の機能 (HMP バージョン 2.3.5.6)

- 新しい SPARC S7-2 シリーズプラットフォームのサポートが追加されました。14 ページの「プラットフォームおよびコンポーネントのサポート」を参照してください

Release SRU 8 の機能 (HMP バージョン 2.3.5.5)

- `nvmeadm list` に、Oracle Flash Accelerator F160 および F320 PCIe カードと 1.6 TB および 3.2 TB NVMe SSD のベンダー情報を表示する `--vendor_specific` オプションが追加されました。
- `nvmeadm getlog` コマンドに、Oracle Flash Accelerator F320 PCIe カードおよび 3.2 TB NVMe SSD のクラッシュダンプおよびメモリーダンプファイルを出力するサポートが追加されました。
- Oracle Quad 10 Gb または Dual 40 Gb Ethernet アダプタのサポートが追加されました。14 ページの「プラットフォームおよびコンポーネントのサポート」を参照してください

Release SRU 4 の機能 (HMP バージョン 2.3.5.0)

- `raidconfig list` の出力に Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID HBA バックアップバッテリーのステータスが追加されました (21077324)

- 新しい X6 シリーズプラットフォームのサポートが追加されました。14 ページの「プラットフォームおよびコンポーネントのサポート」を参照してください

SRU 1 を使用した Oracle Solaris 11.3 初期リリース (HMP バージョン 2.3.3.0)

- 新しい SPARC T および M シリーズプラットフォームのサポートが追加されました。14 ページの「プラットフォームおよびコンポーネントのサポート」を参照してください

プラットフォームおよびコンポーネントのサポート

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris のリリースごとの新しいプラットフォームおよびコンポーネントのサポートに関する詳細は、システム管理サポートマトリックスの Web ページを参照してください。新しいプラットフォームおよびコンポーネントは定期的に追加されます。それらが追加されると、リリース固有のサポートマトリックスのリンクが、そのリリースでサポートされるすべての製品およびコンポーネントのスーパーセットが含まれているメインページに追加されます。

すべてのバージョンのサポートマトリックスへのリンクは次の場所にあります。

<http://www.oracle.com/goto/ohmp>

修正された問題

Oracle Solaris 11.3 SRU リリースで修正された Oracle Hardware Management Pack の問題を次に示します。最新の SRU を常に使用することをお勧めします。

Release SRU 18 で修正された問題 (HMP バージョン 2.4.0.0)

- -H および -U オプションを使ってゾーンまたは LDOM からリモートサービスプロセスに対して IPMItool コマンドを実行すると、「ERROR: Platform not supported (エラー: プラットフォームがサポートされていません)」が生成される (23547668)
- snmpd が root 以外として実行されるときに hwmgmtd への SNMP クエリーが拒否される (22305376)。修正後、アクセス権が正しくないというエラーが snmpd.log に追加される。
- fwupdate がタイムアウトになって Intel カード情報が表示されないことがある (21669346)

- `fwupdate list controller` 出力に、インストールされた Emulex ファイバチャネルアダプタの Oracle SPARC S7-2 サーバー LAN-On-Motherboard の情報が表示される (24335058)
- `fwupdate` コマンドで報告されるコンポーネントファームウェアのバージョン情報が Oracle ILOM での情報と一致しない (23602467)
- `-H` および `-U` オプションを使ってリモートサービスプロセッサに対する操作を実行すると、`fwupdate` からユーザーに間違っして 8-16 文字のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示される (23183413)
- `raidconfig` によって XML ファイルにエクスポートされた構成に間違っした順序の専用スペアが含まれている (16789059)
- 空でない文字列の設定に Oracle ILOM の CLI プロンプトのカスタマイズ機能を使用した場合に、`ubiosconfig` が無効な XML をエクスポートする (24508209)
- リモートサービスプロセッサに対する `-H` および `-U` オプションを使用した `ilomconfig import config` コマンドの実行が、パズフレーズの使用時に失敗する (25246929)
- Hardware Management Agent が一時的な「Unrecoverable error during rebuild (再構築中に回復不能なエラーが発生)」イベントを Oracle ILOM SEL に報告する (25075936)
- Oracle ILOM BUI で、ストレージコントローラのモデルが `fwupdate list controller` の使用時にホストで表示されるものと一致しない (24965291)
- `fwupdate update` を使用した Oracle ILOM の更新時、更新後の Oracle ILOM のリセット待ちに遅れが生じると更新が失敗する (18735442)
- Oracle Hardware Management Pack の各種コマンドで、間違っした形式の「バージョン」情報が表示される (23238876)
- Oracle SPARC T7 サーバー用の Oracle ILOM および Oracle Hardware Management Pack で HDD6 および HDD7 についての構成情報が矛盾している (22256022)
- NVMe コントローラが含まれるように `sunStorageMIB` が更新された (21656689)

Release SRU 15 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.7.2)

- SPARC M7 システムでの SP フェイルオーバーのあと、`ilomconfig` がフェイルオーバー SP と通信できない (23528479)

Release SRU 11 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.7.0)

- `fwupdate` が SPARC S7 LAN-On-Motherboard コントローラファームウェアを更新できない (21616063)
- `ubiosconfig` が Oracle ILOM 3.2.6 を備えたシステム上の BMC に接続できない (24356013)

Release SRU 10 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.6.0)

- `ilomconfig list system-summary` に X5-8 の BIOS バージョンが含まれていない (22875818)
- `raidconfig add disk` コマンドが誤ったりターンコードを出力する (23214158)
- `raidconfig start task` コマンドが誤ったりターンコードを出力する (23214036)
- `hwmgmtcli` が Oracle ILOM 3.0 を備えたシステムでクラッシュする (23278407)
- SPARC システムで NVMe Flash Accelerator PCIe カードがアドオンディスクとして分類されない (23253880、23253984)
- SPARC `sysfw` の更新中に「Error: Power Control option is not supported for pre-application (エラー: 電源管理オプションはプリアプリケーションでサポートされていません)」が確認されることがある (23704957)
- `ipmitool` がリブート中に SPARC M6-32 のコアをダンプすることがある (22263208)
- SPARC システムの `fwupdate list all` 出力が「BIOS」を参照している (21692008)
- `raidconfig list all` が 2 つの LSI ベースの HBA カードのある SPARC システムについて誤ったディスクスロット情報を表示する (23330458)

Release SRU 9 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.5.6)

- Oracle ILOM の `hostmanaged` の設定が `false` に設定されていても、`ilomconfig` でホストと ILOM の相互接続が正常に有効化されたことが示される (23321066)
- システムブート中に `ilomconfig` がコア SIGSEGV (セグメント例外) をダンプする (23226087)

Release SRU 8 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.5.5)

- `fwupdate` が Oracle Quad 10 Gb または Dual 40 Gb Ethernet アダプタの識別に失敗する (23230293)
- `ilomconfig create user` コマンドを使用して、すでに存在するユーザーアカウントを作成しようとした場合の不適切なエラー (22739057)
- Oracle Engineered Systems Hardware Manager のハードウェア管理エージェントおよびストレージポーリングプラグインでのパフォーマンスの問題 (23229659、23205753)

Release SRU 6 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.5.3)

- Oracle ILOM で `hostmanaged` 属性が「true」に設定されていない場合、ローカルホストと ILOM 間の相互接続経路で `fwupdate` を実行できない (22822620)

- 余分な内容を含む UUID のため、Hardware Management Agent は Oracle Engineered Systems Hardware Manager のエンティティ LDOM 情報を正しく更新しないことがある (22686172)
- Hardware Management Agent ログエントリが hwmgmt の代わりに raidconfig バージョン情報から始まっている (22674966)

Release SRU 5 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.5.1)

- x86 システムで fwrxmlidiff コアダンプが定期的に生成される (22205245)
- ilomconfig サービスが、不変の大域ゾーンの「Permission denied」を記録する (19912946)
- Oracle Hardware Management Pack fishwrap XML がマルチパス構成で重複した sun-id を持つ (22456828)
- 一度に複数の nvmeadm コマンドを実行すると、システムパニックが発生する可能性がある (22301202)
- fwupdate は、X4-2B ブレード上で Sun Dual 10 GbE ファブリック拡張モジュールを更新できない (22552898)

Release SRU 4 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.5.0)

- ホストと ILOM 間の相互接続 SP アドレスを変更するために、ilomconfig を使用すると、コアファイルが生成される (22012637)
- システムからストレージシャーシを取り外したあとまたは再度取り付けたあとに hwmgmt エージェントがクラッシュすることがある (21903729)
- fwupdate list controller コマンドで Emulex コントローラが重複して表示される (22155186)
- fwupdate(1m) のマニュアルページの -H オプションの説明が正しくない (21889911)

Release SRU 2 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.3.1)

- タイプ IO ドメイン LDOM が Oracle Engineered Systems Hardware Manager BUI に伝播されない (22020926)

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris のドキュメント

完全なドキュメントは次の場所で入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/ohmp/solarisdocs>

インストールの注意事項と問題

問題	回避方法
19 ページの「Oracle Solaris 11/11.1 から Oracle Solaris 11.3 への更新にはリポジトリの設定が必要である」	あり
19 ページの「Oracle Solaris ゾーンでのインストール」	なし

Oracle Solaris 11/11.1 から Oracle Solaris 11.3 への更新にはリポジトリの設定が必要である

Oracle Hardware Management Pack がインストールされている Oracle Solaris 11 または Oracle Solaris 11.1 を使用している場合に、Oracle Solaris 11.3 に更新するには、Oracle Solaris 11.3 に更新する前に、Oracle Hardware Management Pack リポジトリを設定してください。これは、Oracle Hardware Management Pack パッケージが以前は `mp-re` というリポジトリ内にあり、現在は SSM (Single Server Management 統合) というリポジトリ内にあるためです。

回避方法

Oracle Solaris 11.3 に更新する前に、次のコマンドを入力します。

```
#pkg set-publisher --non-sticky mp-re
```

Oracle Solaris ゾーンでのインストール

Oracle Hardware Management Pack パッケージはすべての Oracle Solaris ゾーンにインストールされます。

Oracle Hardware Management Pack ユーティリティーは非大域ゾーンでは制限されるか、機能しません。

次の Oracle Hardware Management Pack ユーティリティーは非大域ゾーンでは動作しません。

- biosconfig
- fwupdate
- ilomconfig
- itpconfig
- nvmeadm
- raidconfig
- ubiosconfig
- hwgmtcli
- svc:/system/sp/management:default (ハードウェア管理エージェント、hwgmtd と呼ばれる)

LAN インタフェースを非大域ゾーンで使用する場合にかぎり、このユーティリティーは機能します。

- ipmitool

既知の問題と注意事項

- 21 ページの「Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題」
- 23 ページの「fwupdate の既知の問題」
- 29 ページの「hwmgmtcli の既知の問題」
- 31 ページの「ilomconfig の既知の問題」
- 33 ページの「ipmitool の既知の問題」
- 33 ページの「raidconfig の既知の問題」
- 36 ページの「ubiosconfig の既知の問題」
- 37 ページの「Hardware Management Agent および SNMP の既知の問題」
- 42 ページの「ストレージビューアの既知の問題」
- 43 ページの「SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用」

Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題

次の表に示されている問題は、Oracle Hardware Management Pack のすべてのツールに関連しています。

問題	回避方法
21 ページの「SPARC T3 システムで一部のユーティリティーの実行速度が遅い (15720486、15705545)」	あり
22 ページの「firmware-check 機能が Oracle Solaris 11.3 でサポートされていない (24341488、24348414)」	なし
22 ページの「Oracle Sun Server X3-2L および X4-2L 用の Oracle ILOM にディスクの詳細が表示されない (25590843)」	なし

SPARC T3 システムで一部のユーティリティーの実行速度が遅い (15720486、15705545)

SPARC T3 システムでの実行時に、hwmgmtd ユーティリティーが正確な結果を表示しないことがあります。

Oracle Hardware Management Pack のほかのユーティリティーの中には (raidconfig や hwmgmtcli など)、SPARC T3 システムでの実行速度が非常に遅いものもあります。

これらの問題は、問題 15631390 に記載されている Oracle Solaris の問題が原因で発生します。

回避方法

1. 影響を受けているユーティリティーを無効にします。
2. mdb のドキュメントを読んでから、次のコマンドを入力してください。

```
# mdb -kw
> ddi_aliases_present/W 0
```

3. ユーティリティーを再度有効にします。

firmware-check 機能が Oracle Solaris 11.3 でサポートされていない (24341488、24348414)

firmware-check 機能は、Oracle Solaris 11.3 SRU 10 (11.3.10.5.0 より後のリリースバージョン) 以降から削除されています。

Oracle Solaris 11.3 SRU 10 (バージョン 11.3.10.5.0) をインストールした場合、Oracle Solaris 11.3 ではサポートされていない *firmware-check* という Oracle Hardware Management Pack コマンドが含まれています。Oracle Solaris 11.3 SRU 10 (バージョン 11.3.10.5.0) がインストールされている場合、システム起動時にファームウェアチェックを実行する `svc:/system/management/firmware-check:default` サービスは終了し、FMA で障害が発生します。この障害はシステムアプリケーションには影響せず、サービス自体の実行が停止してメンテナンスモードになります。オペレーティングシステムのこのバージョンで *firmware-check* サービスがサポートされていないため、このサービスは永久に無効になります。

また、*firmware-check* コマンドを手動で実行しようとする、「サポートされていないコマンドです」のエラーが表示されます。

Oracle Sun Server X3-2L および X4-2L 用の Oracle ILOM にディスクの詳細が表示されない (25590843)

SRU バージョン 15 から 18 を備えた Oracle Solaris 11.3 を実行している Oracle Sun Server X3-2L または X4-2L で、インストールされたストレージのディスクの詳細が Oracle ILOM に表示されません。たとえば、Oracle ILOM CLI から実行した場合、次のような出力が表示される可能性があります。

```
-> show /System/Storage/Disks/Disk_0/
```

```

/System/Storage/Disks/Disk_0
Targets:

Properties:
  health = OK
  health_details = -
  location = HDD0 (Disk 0)
  type = HDD

Commands:
  cd
  show

```

ホストのオペレーティングシステムから実行する Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris コンポーネントは、通常ストレージ情報を収集して Oracle ILOM に提供します。この問題は、Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris を実行している SRU バージョン 15 から 18 を備えた Oracle Solaris 11.3 でのみ確認されています。これは Oracle ILOM の問題ではありません。

現在この問題の回避方法はありません。

fwupdate の既知の問題

問題	回避方法
24 ページの「16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファームウェアバージョンが表示されない (17037795)」	なし
24 ページの「Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには電源の再投入が必要である (16562687)」	なし
24 ページの「Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージを無視してもかまわない (15762571)」	なし
25 ページの「fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)」	あり
25 ページの「SPARC の一部の Intel ベースのオンボード Ethernet コントローラのファームウェアの更新に fwupdate を使用できない (21616063、21622963)」	なし
26 ページの「Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)」	あり
26 ページの「4 つ以上の Intel ネットワークコントローラを一覧表示または更新したときに、fwupdate が失敗したり、時間がかかったりする (21920385)」	あり
26 ページの「SPARC M7 サービスプロセッサの更新時に fwupdate が失敗のメッセージを表示する (21843467)」	なし
28 ページの「fwupdate マニュアルページに sysfw および sp_bios ターゲットについての誤解を招く情報がある」	あり
28 ページの「fwupdate の check サブコマンドが Oracle Solaris 11.3 でサポートされていない (24348414)」	あり
28 ページの「システムファームウェアやフォールバックブートイメージの更新時に fwupdate で自動資格証明が機能しないことがある (25683463)」	あり

16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファームウェアバージョンが表示されない (17037795)

16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) が NIC または CNA モードになっているとき、fwupdate list コマンドは EFI、FCODE、および BIOS のバージョンを表示しません。

これは、サーバーのオペレーティングシステムに関係なく発生します。

Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには電源の再投入が必要である (16562687)

Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM を 3.1.2.20 よりも前のバージョンからバージョン 3.1.2.20 またはそれ以降にアップグレードするときは、サーバーの電源を再投入する必要があります。ファームウェアの更新後にサーバーの電源が自動的に再投入されるように設定されていない場合は、ホストの電源を切断し、数分後に再度電源を投入します。

Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージを無視してもかまわない (15762571)

Emulex ファイバチャネルカード用にファームウェアのアップグレードを行なっているときは、次のエラーメッセージが表示されることがあります。これらのメッセージは無視してかまいません。

```
Updating c3: lpfc 0000:b0:00.0: 0:1306 Link Up Event in loop back
>>>> mode x1 received Data: x1 x1 x20 x1
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:1309 Link Up Event npiv not supported in loopo
>>>> topology
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TMO:x0
>>>> Success
```

fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)

fwupdate を使用して Hitachi H101414SC 146 GB ディスクドライバ用のファームウェアのダウングレードを試みた場合、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されることがありますが、fwupdate はこのデバイスでのファームウェアのダウングレードをサポートしていません。

回避方法

現在のファームウェアバージョンを、更新するバージョンと比較します。現在のバージョンの方が新しい場合は、ファームウェアを更新しないでください。

SPARC の一部の Intel ベースのオンボード Ethernet コントローラのファームウェアの更新に fwupdate を使用できない (21616063、21622963)

オンボードの Ethernet コントローラ (「LAN On Motherboard」または「LOM」とも呼ばれます) を持つ一部の SPARC システムで、fwupdate がコントローラの詳細を取得できません。この情報がない場合、fwupdate を使用してコントローラのファームウェアを更新できません。

SPARC システムのファームウェアを更新する前に、fwupdate list を使用して情報を表示します。システムのオンボードネットワークコントローラのデバイス情報 (現在のファームウェアバージョンなど) が出力に表示されない場合は、fwupdate を使用してコントローラのファームウェアを更新できません。

fwupdate コマンドは、PCIe Ethernet ネットワークアダプタカードを含むほかのデバイスでは引き続き正常に実行できます。fwupdate の使用がサポートされているシステムおよびコントローラのリストについては、サポートマトリックスを参照してください (<http://www.oracle.com/goto/ohmp>)。

これらのシステムのオンボードネットワークコントローラのファームウェアを更新する必要がある場合は、Oracle サポートに連絡してください。

Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)

fwupdate コマンドを使用した Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新が失敗することがまれにあります。この問題は、Oracle System Assistant を使用してアダプタのファームウェアを更新しようとしたときにも発生することがあります。

回避方法

この問題が発生した場合は、fwupdate コマンドを使用してアダプタのファームウェアの更新を再試行します。障害が続く場合は、Oracle のサポートに連絡してください。

4 つ以上の Intel ネットワークコントローラを一覧表示または更新したときに、fwupdate が失敗したり、時間がかかったりする (21920385)

システムに 4 つ以上の Intel ネットワークコントローラがインストールされている場合、fwupdate list controller コマンドが失敗するか、それらに関する情報を正常に一覧表示するために最大で 20 分かかります。16 個を超える Intel ネットワークコントローラがインストールされている場合は、情報を一覧表示するためにかかる時間はさらに長くなります。この問題は、fwupdate コマンドを使用した Intel ネットワークコントローラのファームウェアの更新に影響することもあります。

回避方法

fwupdate を使用して Intel ネットワークコントローラを一覧表示または更新しようとして失敗した場合は、コマンドを再試行し、コマンドが正常に終了するようにより長い時間を取ってください。障害が続く場合は、Oracle のサポートに連絡してください。

SPARC M7 サービスプロセッサの更新時に fwupdate が失敗のメッセージを表示する (21843467)

Oracle SPARC M7 シリーズサーバーで、fwupdate コマンドを使用してサービスプロセッサファームウェアを更新すると、ホストから fwupdate ログファイルに「updating sp_bios: failed」と表示されます。このメッセージが表示されたあとに、しばらくしてサービスプロセッサがリセットされます。fwupdate コマンドは完了時に失敗メッセージを表示しますが、更新プロセスは実際には成功しています。

ホストから fwupdate コマンドを入力したあと、次のような出力が表示されることがあります。

```
# fwupdate update sp-bios-firmware -f
Sun_System_Firmware-9_4_3-SPARC_M7-Systems.pkg -n sp_bios -H sp_ip_address -U
username
@ Enter password (8 to 16 characters):
*****
```

The following components will be upgraded as shown:

```
=====
ID          Priority Action      Status      Old Firmware Ver.  Proposed Ver.
  New Firmware Ver.  System Reboot
-----
sp_bios    1          Check FW    Success      3.2.5.5.bld_24    N/A
  N/A                               N/A
REMOTE HOST MAY SHUT DOWN DURING SP FIRMWARE UPDATE!
Do you wish to process all of the above component upgrades? [y/n]? y
Updating sp_bios: Failed
```

Execution Summary

```
=====
ID          Priority Action      Status      Old Firmware Ver.  Proposed Ver.
  New Firmware Ver.  System Reboot
-----
sp_bios    1          Update     Failure      3.2.5.5.bld_24    N/A
  N/A                               N/A
Error: Firmware download failed for component
ERROR: Firmware download failed for component
```

/var/log/ssm/fwupdate.log ファイルを調べると、次のようなログ出力が見られる可能性があります。

```
# tail fwupdate.log
ipmiflash[stdout] :Sending upgrade command
ipmiflash[stdout] :
ipmiflash[stdout] :Waiting for upgrade to start.....
ipmiflash[stdout] :Waiting for upgrade to
complete.....
.....XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XX
ipmiflash[stderr]: More robust algorithm supported.
ipmiflash[stderr]:
ipmiflash[stderr]: Upgrade failed (lost contact with host).
ipmiflash[stderr]: DO NOT RESET THE SP! Just try again.
ipmiflash[stderr]: Close Session command failed
```

この問題の回避方法はありません。ファームウェアの更新中にこの障害が発生した場合は、fwupdate コマンドが完了するまで待ってから、システムの電源を再投入します。そのあとに、ホストから fwupdate list sp_bios コマンドを使用して、更新が成功したかどうかを判断できます (表示されるバージョンは、古いバージョンより新しいものになります)。

注記 - sp_bios ターゲットは、SPARC および x86 システムの両方の Oracle Solaris 11.3 SRU 10 では非推奨となりました。代わりに sysfw を使用してください。

2 回目の試行後もサービスプロセッサファームウェアが更新されなかった場合は、Oracle サポートに問い合わせてください。

fwupdate マニュアルページに sysfw および sp_bios ターゲットについての誤解を招く情報がある

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.3 (SRU10) のリリースにおいて、fwupdate のマニュアルページに今後は sp_bios ターゲットが新しい sysfw ターゲットに置き換わると記載されています。Oracle Solaris 11.3 SRU10 では、SPARC システムには sysfw、x86 システムには sp_bios (既存のスクリプトとの下位互換性のために SPARC にも使用できます) の両方のターゲットが引き続き存在しています。

fwupdate の check サブコマンドが Oracle Solaris 11.3 でサポートされていない (24348414)

Oracle Solaris 11.3 SRU 10 (バージョン 11.3.10.5.0) をインストールした場合、「check」というサブコマンドが Oracle Hardware Management Pack の fwupdate コマンドに追加されています。このサブコマンドは Oracle Solaris 11.3 ではサポートされていません。fwupdate check コマンドを実行しようとする、「サポートされていないコマンドです」のエラーが表示されます。

回避方法

現在インストールされているシステムファームウェア (Oracle ILOM を含む) を確認するには、ホストから次のコマンドを入力します。

```
# fwupdate list sysfw
```

インストールしたファームウェアが機能、修正、およびセキュリティに対して最低限必要なバージョンであることを確認するには、プラットフォームの『プロダクトノート』を参照してください。

システムファームウェアやフォールバックブートイメージの更新時に fwupdate で自動資格証明が機能しないことがある (25683463)

自動モードで fwupdate を使用してローカルサービスプロセッサのファームウェア更新を行うときは、fwupdate によってホストと ILOM の相互接続 (有効になっている場

合)が自動的に使用されます。ただし、Oracle ILOM に問題があるため (バグ 25042438 で修正済み)、fwupdate コマンドを使用した x86 または SPARC システムのファームウェア (Oracle ILOM、OBP、BIOS、SYSFW など) や SPARC フォールバックブートイメージの更新に長い時間がかかったり、失敗したりすることがあります。これは、Oracle ILOM の問題が原因でホストと ILOM の相互接続 (最速の接続) の信頼性が得られない可能性があるためです。

その結果、x86 システムのファームウェア (Oracle ILOM や BIOS など) の更新を試みると、更新プロセスは低速の KCS/BMC インタフェースにフォールバックすることがあります。あるいは、SPARC システムのファームウェア (Oracle ILOM、OBP、SYSFW など) やフォールバックブートイメージの更新を試みると、低速の KCS/BMC がサポートされていないために更新プロセスが失敗することがあります。

この問題は、Oracle ILOM 3.2.8 以前のバージョンを含むシステムで発生することがあります。この動作は断続的なもので、転送の信頼性には影響せず、Oracle ILOM へのアクセスにどのパスが使用されるかを左右するだけです。

Oracle Hardware Management Pack バージョン 2.4.0.0 以降を、バグ 25042438 の修正を含む Oracle ILOM バージョンとともに使用すると、この問題は発生しません。それより前のバージョンの Oracle Hardware Management Pack では、Oracle ILOM に修正が含まれていても、この断続的な動作がまだ見られる可能性があります。

回避方法

この問題を回避し、高速のインタフェースを使用するには、fwupdate で -H および -U オプションを使用して、ホストと ILOM の相互接続を直接ターゲットにします。たとえば、x86 または SPARC システムのシステムファームウェアを更新する場合は、次の操作を行います。

```
# fwupdate update sysfw -x metadata.xml -H 169.254.182.76 -U root
```

ここで、169.254.182.76 はホストと ILOM の相互接続の Oracle ILOM ポートの IP アドレスであり、root は root ユーザーを指します。

hwmgmtcli の既知の問題

問題	回避方法
30 ページの「Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーシ情報に関するエラーメッセージが返されることがある (15762248)」	あり
30 ページの「Sun Blade X6270 M2 で誤ったシャーシデータが表示される (15732926、15737206、15737199)」	あり
30 ページの「hwmgmtcli list open_problems を実行すると、不完全な未解決の問題のレポートが表示されることがある (21787319)」	なし

Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーシ情報に関するエラーメッセージが返されることがある (15762248)

hwmgmtcli コマンドを実行すると、次のようなシャーシ情報に関するエラーが返されます。

```
Chassis Model: ERROR  
Chassis Address: ERROR
```

回避方法

このエラーを回避するには、Oracle ILOM 3.1 にアップグレードします。

Sun Blade X6270 M2 で誤ったシャーシデータが表示される (15732926、15737206、15737199)

Sun Blade X6270 M2 サーバーモジュールで hwmgmtcli コマンドを使用してシャーシ情報を表示すると、シャーシに関する一部の情報が欠けています。

回避方法

Oracle ILOM CMM を使用してシャーシ情報を表示します。

hwmgmtcli list open_problems を実行すると、不完全な未解決の問題のレポートが表示されることがある (21787319)

Oracle Solaris 11.2 SRU 14 を実行している場合、特定のまれな状況で、hwmgmtcli list open_problems コマンドでホストがストレージデバイスで検出した未解決の問題が表示されないことがあります。または、ホストで検出されたストレージの問題の表示が不完全であったり、ストレージ以外のほかの既存の未解決の問題が上書きされたりすることもあります。この問題が発生する場合は、次のような状態になっています。

1. Oracle ILOM で /System/Storage/health が正常であると報告される。
2. Oracle ILOM が診断できないストレージの問題をホストが診断した。

このような状態では、hwmgmtcli list open_problems の出力が次のように間違っていることがあります。

- Oracle ILOM に未解決の問題がない場合は、すべての種類の未解決の問題が表示されません。
- ホストで検出されたストレージの問題が見つかった場合は、hwmgmtcli の出力で既存の Oracle ILOM の問題が置き換えられる問題のみが表示されます。たとえば、Oracle ILOM に 2 つの問題が存在し、ホストがストレージの問題を 3 つ検出した場合、hwmgmtcli は 2 つのストレージの問題のみを表示します (Oracle ILOM の 2 つの問題を置き換える)。

この問題の回避方法はありません。起こりうるストレージの問題を評価する場合は、最初に Oracle ILOM を使用して、診断可能なストレージの問題に関するできるだけ多くの情報を収集します。その後、hwmgmtcli を使用して、Oracle ILOM が診断できないストレージの問題に関する追加情報を取得できるかどうかを確認します。ホストのログ、および使用可能な OS やベンダーのストレージコントローラ用ツールを使用して、さらに問題を調査することもできます。

ilomconfig の既知の問題

問題	回避方法
31 ページの「Oracle ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (15650623)」	あり
32 ページの「ilomconfig のホストの資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)」	あり

Oracle ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (15650623)

バージョン 3.0.9 以前の Oracle ILOM には、ilomconfig コマンドが「Cannot connect to BMC」というエラーで失敗する原因となり得る制約があります。これらのエラーは、複数のプログラムが Oracle ILOM の IPMI インタフェースへのアクセスを試みる場合に発生することがあります。

このようなエラーが発生した場合、Oracle ILOM はこのエラーを修復する必要があります。この修復は、Oracle ILOM が提供するサービスに 1-2 分の混乱が生じることを意味する可能性があります。

回避方法

このエラーを回避するには、ilomconfig の使用前に Hardware Management Agent および Storage Monitoring Agent を無効にします。また、ilomconfig の実行時に、Oracle ILOM へのほかのすべての IPMI アクセス (ipmitool の使用など) を行わないようにします。

ilomconfig のホストの資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)

ホストと ILOM の相互接続を介した Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) へのアクセスを容易にするために使用されるホスト資格キャッシュ機能は無効にされています。ilomconfig create credential コマンドでは、Oracle ILOM のユーザー名とパスワードの情報を格納するためにホストに資格キャッシュファイルが作成されなくなります。既存の資格キャッシュも、Oracle ILOM SP にアクセスする Oracle Hardware Management Pack コマンドで使用されません。

この変更は、Oracle ILOM 3.2.4 より前のバージョンのシステムでのみ、システムローカル SP にアクセスする一部の Oracle Hardware Management Pack コマンド (fwupdate、ilomconfig、ubiosconfig など) が発行される動作に影響します。これらのシステムでは、(ホストと ILOM の相互接続またはリモートの Ethernet ネットワークのいずれかに) LAN インタフェースを使用する場合、SP にアクセスするコマンドに -H および -U オプションを使用して手動で資格情報を含める必要があります。資格情報を指定しない場合、これらのコマンドはデフォルトの低速なローカル KCS インタフェースを使用してローカルの Oracle ILOM SP にアクセスします。

Oracle ILOM バージョン 3.2.4 以降のシステムの場合は、ホストと ILOM の相互接続を介してローカルの SP にアクセスするコマンドを実行するときに、資格情報を含める必要はありません。ネットワーク接続を使用して SP にアクセスするコマンドを実行するときは、資格情報を手動で含める (-H および -U オプションを使用) 必要があります。

以前に保存されたホスト資格キャッシュを削除する機能は、ilomconfig delete credential コマンドを使用することによって引き続きサポートされます。

回避方法

Oracle ILOM SP (3.2.4 より前のバージョン) にアクセスし、ユーザー資格証明を必要とする Oracle Hardware Management Pack コマンドは、コマンド行から手動で入力する必要があります。必要なパスワードは、stdin にパイプしてスクリプトで使用することもできます。

例:

- **ilomconfig list system-summary --remote-hostname=sp_ip --remote-username=username**
- **cat passwd.file | fwupdate list all --remote-hostname=sp_ip --remote-username=username**

ここで、sp_ip は Oracle ILOM SP の IP アドレス、username は root 権限を持つ Oracle ILOM のユーザーアカウント、および passwd.file はユーザーが作成した、Oracle ILOM ユーザーアカウントのパスワードが含まれているファイルです。

注記 - 上記の例では、ネットワークポートではなくローカルホストと ILOM の相互接続を使用して SP にアクセスするために、`ilomconfig list interconnect` コマンドを使用して IP アドレスを取得しています。

ipmitool の既知の問題

問題	回避方法
33 ページの「SP のブート時に SPARC T3-4 ホストに電源が入っていると、ipmitool エラーが発生することがある (15719015、15691003)」	あり

SP のブート時に SPARC T3-4 ホストに電源が入っていると、ipmitool エラーが発生することがある (15719015、15691003)

SPARC T3-4 ホストの電源が入っているときに SP をブートすると、次のエラーが表示されることがあります。

```
SP communication failure....Please start IPMI
```

この状態では ipmitool は機能しません。

回避方法

このエラーが発生した場合は、ホストをリブートしてエラーをクリアします。

raidconfig の既知の問題

問題	回避方法
34 ページの「ユーザー警告: raidconfig でシステムのブートディスクが使用可能と表示される (20992189)」	該当なし
34 ページの「SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないことがある (15782246)」	あり
34 ページの「3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)」	なし
35 ページの「RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する cclear タスクの完了率が常に 0% を示す (15742034)」	なし

問題	回避方法
35 ページの「SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティが表示されない (15666684)」	あり
35 ページの「LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (15675209)」	なし
36 ページの「raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされないと表示される (22129034)」	あり

ユーザー警告: raidconfig でシステムのブートディスクが使用可能と表示される (20992189)

raidconfig を使用すると、コントローラおよび接続されているディスクをスキャンして、RAID ボリューム内にすでにあるディスクまたは RAID ボリュームに含めることができるディスクを一覧表示できます。ただし、raidconfig は、使用可能なディスクにデータが存在するかどうか、またはディスクがブートディスクまたはアプリケーションの論理ディスクとして使用されているかどうかを判別できません。

raidconfig を使用してボリュームを作成する (既存のデータが上書きされます) 前に、オペレーティングシステムのツールを使用して、接続されているディスク、それらの列挙、および保持するデータが含まれているかどうかを調べます。

SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないことがある (15782246)

raidconfig を使用して作成した RAID ボリュームが、Oracle ILOM の /STORAGE ターゲットの下に表示されないことがあります。

回避方法

新しく作成したボリュームを表示するには、`raidconfig list all` コマンドを使用します。

3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)

SGX-SAS6-R-INT-Z HBA の場合、RAID 1 ボリュームの作成に使用できるディスクは 2 台までです。

RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (15742034)

RAID ボリュームで init タスクが実行されているときに、その RAID ボリューム内のディスクに対して clear タスクが開始されます。init タスクが終了するまで、clear タスクの完了率が常にゼロを示しています。

回避方法は必要ありません。

SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティが表示されない (15666684)

SGX-SAS6-R-INT-Z HBA または SGX-SAS6-R-REM-Z の使用時に作成された RAID ボリュームに Mounted プロパティがありません。raidconfig はマウント済みのボリュームの削除を回避しません。

回避方法

1. raidconfig コマンドを使用して、RAID ボリュームのデバイス名を取得します。
2. mount コマンドの出力で、手順 1 で取得したデバイス名のインスタンスを調べます。
3. mount コマンドの出力にデバイス名が存在する場合、RAID ボリュームは現在マウントされているため、raidconfig を使用して削除しないようにします。
4. 最初に RAID ボリュームをアンマウントしてから、raidconfig を使用してそのボリュームを削除します。

LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (15675209)

raidconfig を --name オプションとともに使用して RAID 0/1 拡張モジュール (X4607A) に RAID ボリュームを作成したあと、その RAID ボリュームは正常に作成されているのに RAID ボリューム名が Null のままになっています。

raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされないと表示される (22129034)

Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA (内蔵または外付け) HBA が取り付けられているシステムで、`--level=10` オプションを指定した `raidconfig` を使用して RAID 10 ボリュームを作成しようとする、`「ERROR: RAID level not supported by controller (エラー: この RAID レベルはコントローラでサポートされていません)」` というメッセージが表示されます。

回避方法

Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA (内蔵または外付け) の FCODE バージョン 1.00.65 は RAID 10 をサポートしていません。RAID レベル 1e で使用される偶数 (4 以上) 番号または奇数 (3 以上) 番号のディスクはサポートされます。RAID レベル 10 の代わりに RAID レベル 1e を使用してください。

たとえば、システムの 4 つのディスクに RAID 1e ボリュームを作成するには、次のように入力します。

```
raidconfig create raid --level=1e -d c0d0,c0d1,c0d2,c0d3
```

この RAID ボリュームは、`raidconfig` では RAID 1e として表示されますが、HBA の構成ユーティリティー (`sas2ircu`) では RAID 10 として表示されます。

これは、FCODE バージョン 1.00.65 を使用する Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA では予期された動作です。

ubiosconfig の既知の問題

問題	回避方法
36 ページの「 ubiosconfig が Oracle ILOM 3.2.6 を備えたシステムの BMC に接続できない (24356013) 」	あり

ubiosconfig が Oracle ILOM 3.2.6 を備えたシステムの BMC に接続できない (24356013)

Oracle Solaris SRU11 (*Hardware Management Pack for Oracle Solaris* バージョン 2.3.7.0) で修正。

Oracle ILOM バージョン 3.2.6 を備えたシステムで、`ubiosconfig` コマンドを実行してシステムの UEFI BIOS 設定を変更しようとする、BMC に接続できないことに関するエラーメッセージが表示され失敗します。この問題は、Oracle ILOM のほかのバージョンでは確認されていません。

回避方法

これらのシステムに対して UEFI BIOS 設定を変更するには、ローカルのサーバーコンソールまたはリモートのコンソールのいずれかから、システムの BIOS 設定ユーティリティを実行する必要があります。BIOS 設定ユーティリティのアクセスについての詳細は、プラットフォームのドキュメントを参照してください。

Hardware Management Agent および SNMP の既知の問題

問題	回避方法
38 ページの「Oracle ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが生成されない (15686011)」	あり
38 ページの「Storage MIB の <code>snmpwalk</code> によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)」	なし
38 ページの「SNMP トラップの問題」	あり
39 ページの「Sun Blade X6250 サーバーモジュールが間違っサービスプロセッサのバージョン番号を報告する」	あり
39 ページの「ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサーの親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)」	あり
39 ページの「SPARC T3 シリーズサーバーでディスクリット電流センサーが間違っって分類される (15687547)」	あり
39 ページの「 <code>sunHwMonFruStatus</code> がコンポーネントの障害状態を反映しない (15687574)」	あり
40 ページの「 <code>SunHwMonInventoryTable</code> が間違っった数の DIMM を示す (15566455)」	あり
40 ページの「 <code>SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable</code> のセンサーが正しくない」	なし
40 ページの「ホストエージェントが間違っった通知を生成することがある (15675490)」	あり
41 ページの「 <code>sunStorageVolumeOSMountPoint</code> がマウントポイントを示していない (15666684)」	なし
41 ページの「SPARC T3-2 システムの <code>DiskOSDeviceName</code> が正しくない (15668518)」	あり
41 ページの「Storage MIB がデュアルバスディスクを公開しない (15673745)」	あり
42 ページの「SPARC システムで NVMe Flash Accelerator PCIe カードがアドオンディスクと分類されない (23253880、23253984)」	あり

Oracle ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが生成されない (15686011)

Oracle ILOM で次のタイプの SNMP トラップは生成されません。

- ホストの状態変化に関して報告されるイベント
- 障害処理に関連するイベント
- プラットフォーム上のコンポーネントの存在の状態変化に関連するイベント

回避方法

この情報には、Oracle ILOM または SNMP インタフェースからアクセスできます。

Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)

SPARC システムで snmpwalk コマンドを Storage MIB とともに使用すると、ストレージ情報が表示されますが、出力の終わりにエラーメッセージまたはタイムアウトを受け取る可能性があります。

このエラーメッセージは無視しても差し支えありません。

SNMP トラップの問題

- 一部のプラットフォームで sunHwTrapProductName が空の場合があります。
- サービスプロセッサで Oracle ILOM 2.0 が実行されている場合、sunHwTrapSystemIdentifier は空です。
- sunHwTrapAssocObjectId が常に SNMPv2-SMI::zeroDotZero に設定されます。
- sunHwTrapComponentName が、Oracle ILOM で使用される名前ではなくコンポーネントの IPMI 名に設定されます。
- Sun Fire X4200 M2 サーバーで、Hardware Management Agent が、sunHwTrapSlotOrConnectorOk または sunHwTrapSlotOrConnectorError の代わりに sunHwTrapComponentOK または sunHwTrapComponentError を送信しますが、それらは Oracle ILOM によって送信されるものです。

回避方法

この情報には、Oracle ILOM または SNMP インタフェースからアクセスできます。

Sun Blade X6250 サーバーモジュールが間違っ たサービスプロセッサのバージョン番号を報告する

Sun Blade X6250 サーバーモジュールで古いサービスプロセッサファームウェアを使用して Hardware Management Agent を実行すると、間違っ
たサービスプロセッサのバージョンが報告されます。

回避方法

最新のファームウェアにアップグレードすることをお勧めします。

ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサー の親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)

ブレードシャーシの共有現場交換可能ユニット (FRU) 上のセンサーの sunHwMon...
SensorParentFruName が間違っ
て /SYS に設定されています。

回避方法

Oracle ILOM を使用して、これらのセンサーの正しい親の名前を確認します。

SPARC T3 シリーズサーバーでディスクリット電流 センサーが間違っ て分類される (15687547)

SPARC T3 シリーズサーバーで、ディスクリット電圧センサーが間
違っ
て分類され、sunHwMonDiscreteCurrentSensorTable ではなく
sunHwMonDiscreateOtherSensorTable に一覽表示されます。

回避方法

sunHwMonDiscreateOtherSensorTable を使用してディスクリット電圧センサーを
表示します。

sunHwMonFruStatus がコンポーネントの障害状態を 反映しない (15687574)

sunHwMonFruStatus で表されるコンポーネントのステータスは、そのコンポーネン
ト上のセンサーの累積ステータスです。このステータスは、Oracle ILOM のコンポー
ネン
トステータスとは異なる場合があります。

回避方法

Oracle ILOM をチェックして、コンポーネントに障害が発生しているかどうかを判断します。

SunHwMonInventoryTable が間違っただ数の DIMM を示す (15566455)

一部のプラットフォームで、システムに存在しない DIMM が sunHwMonInventoryTable に示されます。

回避方法

FruDescr、FruPartNumber、FruSerialNumber、および FruManufacturer オブジェクトを表示します。これらの値が入力されていれば、それらの DIMM はシステムに存在します。値が入力されていなければ、存在しない DIMM を示しているため、無視しても差し支えありません。

SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しくない

プラットフォームの制約のために、ホストに物理的に存在しないディスク用のセンサーが sunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable に含まれていることがあります。これらのセンサーの ParentFruIndex は -1 であり、センサーの最後に STATE-HIDDEN が付いています。これらのセンサーは無視しても差し支えありません。

ホストエージェントが間違っただ通知を生成することがある (15675490)

最新リリースの Oracle ILOM で定義されたすべてのデバイスタイプがホストエージェントによって認識されるわけではないため、結果として、ホストエージェントがデバイス固有の通知 (sunHwTrapSlotOrConnector など) ではなく、一般的な sunHwTrapComponent 通知を生成する場合があります。これは、スロットやコネクタではなくコンポーネントエラーが原因です。

回避方法

MIB からの NAC 名を使用して、通知の対象となる特定のデバイスを調べます。

sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (15666684)

sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントではなくデバイス名を報告します。

SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (15668518)

SPARC T3-2 サーバーの DiskOSDeviceName が OSDeviceName として 02000000:0 および 02000000:2 を報告します。ホスト OS 上にそのような名前はありません。

回避方法

マルチパスディスクの場合、raidconfig はフルパス名の代わりにデバイスの WWN のみを返します。format コマンドは、このデバイスのフルパス名に WWN が組み込まれたものを返します。デバイスを相互に関連付けるには、WWN を使用します。

例:

- これは raidconfig を使用して得られるデバイスに関する情報です。Device: 5000CCA00A49BC1C
- これは format コマンドを使用して得られるデバイスに関する情報です。Device: c0t5000CCA00A49BC1Cd0

Storage MIB がデュアルパスディスクを公開しない (15673745)

1 台の物理ディスクが 2 台のコントローラにデュアルパス化されている場合に、sunStorageDiskTable が単一のディスクインスタンスのみを表示します。

回避方法

Oracle ILOM を使用して、ディスクに関する正しい情報を確認します。

SPARC システムで NVMe Flash Accelerator PCIe カードがアドオンディスクと分類されない (23253880、23253984)

Oracle Solaris SRU10 (Hardware Management Pack for Oracle Solaris バージョン 2.3.6.0) で修正。

Oracle ILOM から表示すると、SPARC システムの NVMe Flash Accelerator PCIe カード上のフラッシュストレージが、System/Storage/Disks コンポーネント階層の下にアドオンディスクとして一覧表示されません。これは Oracle ILOM にストレージ情報を提供するために使用されるハードウェア管理エージェントが、現在 NVMe フラッシュアクセラレータ PCIe カード上のストレージを分類している方法に関連しています。

回避方法

Oracle ILOM で取り付けられている NVMe フラッシュアクセラレータ PCIe カードに関する基本情報を取得するには、System/PCI_Devices/Add-on を参照してください。例:

```
show /System/PCI_Devices/Add-on/Device_6
Targets:

Properties:
  part_number = 7110865
  description = Oracle Flash Accelerator F160 PCIe Card: 1.6TB, NVMe PCIe 3.0
  location = PCIe6 (PCIe Slot 6)
  pci_vendor_id = 0x8086
  pci_device_id = 0x0953
  pci_subvendor_id = 0x8086
  pci_subdevice_id = 0x370b

Commands:
  cd
  show
```

取り付けられている NVMe フラッシュアクセラレータ PCIe カードの詳細および構成については、Oracle Hardware Management Pack の nvmeadm コマンドを使用します。

ストレージビューアの既知の問題

問題	回避方法
43 ページの「Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)」	なし
43 ページの「Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティが正しくない (15584958)」	なし
43 ページの「write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)」	なし

Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)

Sun Storagetek PCI-E SAS RAID HBA (SGXPCIESAS-R-INT-Z) を搭載した、RAID 1 (ミラー化) RAID 用のグローバルホットスペアが構成されている Oracle Solaris システムで Storage Management Agent を使用しているときに、ディスクの詳細が専用ホットスペアとして表示されます。

Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティーが正しくない (15584958)

Sun Storagetek PCI-E SAS RAID HBA (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の max_disks プロパティーがストレージビューアに間違って 0 として表示されます。

write_cache_enabled プロパティーが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)

write_cache_enabled プロパティーは Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できません。

SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用

次の各セクションでは、SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーで Oracle Hardware Management ツールを使用するための特定の情報を説明しています。

- [44 ページの「ilomconfig \(16369886\)」](#)
- [45 ページの「hwmgmtcli \(16507559\)」](#)
- [46 ページの「itpconfig \(16508501、16507898\)」](#)
- [46 ページの「Hardware Management Agent \(15824059、15824037\)」](#)

ilomconfig (16369886)

SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーのシャーシには、1 組のデュアル冗長 SP (SP0 および SP1) が搭載されています。M5-32、M6-32、および一部の M7 シリーズシステムには、4 台の SP プロキシ (SPP0、SPP1、SPP2、SPP3) も搭載されています。

ホスト OS は SP からすべての Oracle ILOM プロパティに直接アクセスできるわけではないため、`ilomconfig` ではなく Oracle ILOM を使用して SP から Oracle ILOM プロパティにアクセスする必要があります。

SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーでは、Oracle Solaris ホスト OS は SPP で動作します。`ilomconfig` は、Oracle Solaris ホスト OS から Oracle ILOM SPP にアクセスします。

次の表で、SP と SPP のプロパティを説明します。

サービスプロセッサの種類	説明	SP にアクセスするためのツール
SP0、SP1 (冗長サービスプロセッサ)	M5-32、M6-32、および M7 の場合、これらは、標準の Oracle ILOM プロパティをすべて備えた主要サービスプロセッサです。SP は SPP を管理します。	Oracle ILOM
SPP0、SPP1、SPP2、SPP3 (サービスプロセッサプロキシ)	各 SPP はドメイン構成可能ユニット (DCU) をモニターします。ホスト OS は SPP で動作します。	<code>ilomconfig</code>

関連項目:

- [44 ページの「SPARC サーバー M5-32 および M6-32 の SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティ」](#)
- [45 ページの「SPARC M シリーズサーバーのプラットフォームでサポートされている `ilomconfig` コマンド」](#)

SPARC サーバー M5-32 および M6-32 の SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティ

次の表に、SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーの SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティを示します。

Oracle ILOM のプロパティ	<code>ilomconfig</code> の機能
<code>/SP/config</code>	エクスポート、インポート

Oracle ILOM のプロパティ	ilomconfig の機能
/SP/users	ユーザー
/SP/services/snmp/communities	SNMP コミュニティー
/SP/network/pending	ネットワーク管理 (読み取り専用)

SPARC M シリーズサーバーのプラットフォームでサポートされている ilomconfig コマンド

SPARC M シリーズサーバーでは、次の ilomconfig サブコマンドおよびターゲットがサポートされています。

- list サブコマンドのターゲット:
 - system-summary
 - network
 - network-ipv6
 - interconnect
 - identification
- enable サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
- disable サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
- modify サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
 - identification

hwmgmtcli (16507559)

SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーなどのマルチドメインシステム用に新しいサブシステムが追加されました。

dcu - DCU サブシステムの詳細を表示します。

SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーの場合、Oracle ILOM によって診断された open_problems は、PDOM ホストで hwmgmtcli によって報告されません。また、health および health_details の情報が表示されないか、信頼できない可能性があります。

マルチドメインシステムでは、hwmgmtcli は hwmgmtcli が実行されているホストドメイン専用のデバイス (コントローラ、ストレージなど) のみを表示できます。それに対

して、Oracle ILOM はすべてのドメインからのレポートを取得するため、システム内のすべてのデバイスについて報告できます。

itpconfig (16508501、16507898)

障害プロキシは SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーで使用するようサポートされていません。

Hardware Management Agent (15824059、15824037)

Hardware Management Agent `svc:/system/sp/management:default` (`hwmgmt` としても知られる) は、SPARC M5-32、M6-32、および M7 サーバーで使用して、ストレージ情報を Oracle ILOM に提供できますが、これらのシステムの非物理ドメインで、SNMP コンポーネントは正しく機能せず、間違ったデータを提供します。